

# A classification of periodic maps on 2-manifolds.

上智大 理工 横山 和夫

## § 0. Introduction

問題 多様体  $M$  に period  $n$  の periodic map はいくつあるか？

この基本的な問題を 2次元多様体について考えようというのが目的である。その一つの方法についてこの節では概要を述べておく。その前にいくつかの定義をしておこう。

定義 1  $X$  を位相空間とした時、同相写像  $f: X \rightarrow X$  が period  $n$  の periodic map (略して period  $n$  map ということにする。) とは  $f^n = \text{id}$  かつ  $f^k \neq \text{id}$  ( $1 \leq k < n$ ) を満たすときをいう。

定義 2  $X, Y$  を位相空間,  $f: X \rightarrow X$  を period  $n$  map,  $g: Y \rightarrow Y$  を period  $n$  map とするとき, 次の条件を満たす同相写像  $h: X \rightarrow Y$  が存在するとき,  $f$  と  $g$  は同値 (equivalent) という。

$$\begin{array}{ccc} X & \xrightarrow{f} & X \\ \downarrow h & \circlearrowleft & \downarrow h \\ Y & \xrightarrow{g} & Y \end{array}$$

以下,  $X$  を 2次元多様体 (connected compact) とする。また  $X$  から  $X$  への period  $n$  map を  $X$  上の period  $n$  map という。

今,  $f$  が  $X$  上の period  $n$  map のとき  $S_k(f) = \{x \in X \mid f^k(x) = x \text{ の } f^i(x) \neq x \text{ (} 1 \leq i < k \text{)}\}$  とおくとき ( $1 \leq k < n$ )  $X$  の 2次元多様体であるから  $S_k(f)$  は  $\emptyset$ , 0次元または 1次元多様体になる。  $S(f) = \bigcup_{k=1}^{n-1} S_k(f)$  とおく ( $f$  の 特異点と呼ぶ。) とき, ここでは  $\dim S(f) \leq 0$  の場合のみを扱う。(実際は  $k$  が  $n$  の約数でない時は,  $S_k(f) = \emptyset$ )

問題をまとめておくと

**Problem**  $X$  を connected compact 2次元多様体としたとき,  $\dim S(f) \leq 0$  なる  $X$  上の period  $n$  の periodic map は (同値を除いて) いくつあるか? (今後ことわらな限り, 2次元多様体は connected compact,  $n$  は period を表わすものとする。)

方法の概要 上のような条件をみたす  $f$  が与えられた時,  $X$  の  $f$  による orbit space  $X/f = Y$  はまた 2次元多様体であり, canonical map  $p: X \rightarrow Y$  は  $p(S(f)) = S$  が branch set である  $n$ -fold cyclic branched covering になる

ていて,  $p: (X - \mathcal{S}(f)) \rightarrow (Y - S)$  は  $n$ -fold cyclic covering になっている。

$$\begin{array}{ccc} X & \xrightarrow{\quad} & Y \\ \cup & \searrow p & \cup \\ X - \mathcal{S}(f) & \xrightarrow{\quad} & Y - S \end{array}$$

そこで  $\mathcal{P}_n(Y, S) = \{ f: X \rightarrow X \text{ period } n \text{ map} \mid X/f \cong Y \text{ (同相) } \}$  とおき, その同値類の集合  $\mathcal{P}_n(Y, S)/\sim$  を  $\mathcal{O}_n(Y, S)$  と書ぶとき,

Proposition  $\mathcal{O}_n(Y, S)$  は  $H_1(Y - S)$  から  $\mathbb{Z}_n$  への onto homomorphism 全体の集合  $[H_1(Y - S), \mathbb{Z}_n]$  の  $A$ -同値類と一対一の対応をする。

• 証明は [5] に branched covering の基本性質を使えば, [5] と同様に行える。この定理には 2次元の操作という条件はいらない。詳しくは [ ] を参照)

定義 3  $\omega_1, \omega_2$  を  $H_1(Y - S)$  から  $\mathbb{Z}_n$  への onto homo とするとき, 同相写像  $h: Y \rightarrow Y$  (st.  $h(S) = S$ ) が存在して,  $h_* = \omega_1 \circ \omega_2^{-1}$  とおくとき, 次の図式が可換るとき,  $\omega_1$  と  $\omega_2$  は  $A$ -同値 という。

$$\begin{array}{ccc} H_1(Y - S) & \xrightarrow{h_*} & H_1(Y - S) \\ \omega_1 \searrow & \circlearrowright & \swarrow \omega_2 \\ & \mathbb{Z}_n & \end{array}$$

2次元多様体においては *homotopy group* の *generating system* は求まっているので, 上の Prop. を使って Problem を解こうというのが目的である。すなわち,

定理  $\mathcal{P}_n(\gamma, \delta)$  の数は決定できる。(§2, §3 の定理 1, 2 参照)

### §1. 基本的な計算式 (組み合わせ整数論)

この節では  $C(n; l, m) = \left\{ (\delta_1, \delta_2, \dots, \delta_l, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m) \mid \delta_i, \theta_i \in \mathbb{N}, 0 \leq \delta_1 \leq \delta_2 \leq \dots \leq \delta_l < n, 1 \leq \theta_1 \leq \theta_2 \leq \dots \leq \theta_m < n, \delta_1 + \delta_2 + \dots + \delta_l + \theta_1 + \theta_2 + \dots + \theta_m \equiv 0 \pmod{n} \right\} (=D)$  の元 の個数を計算する のが目的である。(後で使うので)

$f_j(x, y) = 1 + yx^j + y^2x^{2j} + \dots + y^i x^{ij} + \dots$  とおき,  
 $F^0(x, y) = \prod_{j=0}^{n-1} f_j(x, y)$ ,  $F^*(x, z) = \prod_{j=1}^{n-1} f_j(x, z)$ ,  
 $F(x, y, z) = F^0(x, y) F^*(x, z)$  とおくと, 明らかに  
 $F(x, y, z)$  を  $x, y, z$  の級数とみえる時の  $y^l z^m x^{in}$  の係数  $\kappa(i)$  の和  $\sum_{i=0}^{l+m-1} \kappa(i)$  が求める  $C(n; l, m)$  である。そこで,  
 $\zeta = \cos \frac{2\pi}{n} + i \sin \frac{2\pi}{n}$  (1 の原始  $n$  乗根) とし,  $\zeta_1 = \zeta$ ,  
 $\zeta_2 = \zeta^2, \dots, \zeta_i = \zeta^i, \dots, \zeta_n = \zeta^n (= 1)$  とおくと,  
 $F(x, y, z)$  を  $x$  の級数とみえる時の  $x^{in}$  の係数の和 ( $i=0, 1, \dots$ ) は  $\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n F(\zeta_i, y, z)$  である。したがって求める  $C(n; l, m)$  は  $\frac{1}{n} \sum F(\zeta_i, y, z)$  を  $y$  と  $z$  の級数とみえる時の  $y^l z^m$  の係数

である。実際に計算すると、 $f_j(x, y) = (1 - yx^j)^{-1}$  だから、  
 $(F^0(x, y))^{-1} = \prod_{j=0}^{n-1} (1 - yx^j) = 1 + \sum_{j=1}^n \frac{(1-x^n)(1-x^{n-1}) \cdots (1-x^{n-j+1})}{(1-x)(1-x^2) \cdots (1-x^j)} x^{j(i-1)/2} (-y)^j$   
 $(F^*(x, z))^{-1} = \prod_{j=1}^{n-1} (1 - zx^j) = (F^0(x, z))^{-1} / (1-z)$  となる。した

が、 $\zeta_1, \zeta_2, \dots, \zeta_n$  のうちの  $\zeta$  を 1 の原始  $d$  乗根 ( $\varphi(d)$  がある。  $\varphi(d)$  は Euler 関数) としたとき、 $d$  は  $n$  の約数だから  $d' \in \mathbb{N}$  を  $dd' = n$  なる自然数とすれば、

$$\begin{aligned} (F^0(\zeta, y))^{-1} &= 1 + \sum_{j=1}^n \frac{(1-\zeta^j)(1-\zeta^{2j}) \cdots (1-\zeta^{n-j+1})}{(1-\zeta)(1-\zeta^2) \cdots (1-\zeta^j)} \zeta^{j(i-1)/2} (-y)^j \\ &= \left\{ 1 + \binom{d'}{1} \zeta^{d(d-1)/2} (-y)^d + \cdots + \binom{d'}{k} \zeta^{kd(kd-1)/2} (-y)^{kd} + \cdots + \binom{d'}{d'} \zeta^{n(n-1)/2} (-y)^n \right\} \\ &= \left\{ 1 + \binom{d'}{1} (-yd) + \binom{d'}{2} (-yd)^2 + \cdots + \binom{d'}{k} (-yd)^k + \cdots + \binom{d'}{d'} (-yd)^{d'} \right\} \\ &= (1 - yd)^{d'} \text{ , 同様に } (F^*(\zeta, z))^{-1} = (1 - zd)^{d'} / (1-z) \text{ 故に,} \\ F(\zeta, y, z) &= (1 - yd)^{-d'} \cdot (1-z)(1 - zd)^{-d'} \text{ となる。このうち} \\ y^l z^m \text{ の係数は,} \end{aligned}$$

①  $l \equiv 0 \pmod{d}$  かつ  $m \equiv 0 \pmod{d}$  のとき

$$\binom{l/d + d' - 1}{d' - 1} \cdot \binom{m/d + d' - 1}{d' - 1}$$

②  $l \equiv 0 \pmod{d}$  かつ  $m-1 \equiv 0 \pmod{d}$  のとき ( $m=0$  のときは必要なし)

$$-\binom{l/d + d' - 1}{d' - 1} \cdot \binom{(m-1)/d + d' - 1}{d' - 1}$$

③ その他の時 0

(ここに  $\binom{a}{b}$  は  $a$  と  $b$  の組み合わせの数を表す)

したがって  $\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n F(\zeta_i, y, z)$  の  $y^l z^m$  の係数 (i.e.  $C(n; l, m)$ ) は次のようにして求められる。

$d_1, d_2, \dots, d_s, d_{s+1} = n$  を、 $n$  の 1 以外の約数とし、

$d_i'$  と  $d_i d_i' = n$  なる自然数とする。この時,  $d_1, d_2, \dots, d_{s+1}$  のうち

◎  $d_{i_1}, d_{i_2}, \dots, d_{i_u}$  が  $l$  と  $m$  の約数であり,

◎  $d_{j_1}, d_{j_2}, \dots, d_{j_v}$  が  $l$  と  $(m-1)$  の約数 とするとき,

$$\frac{1}{n} \left\{ \binom{l+n-1}{n-1} \binom{m+n-2}{n-2} + \sum_{k=1}^u \varphi(d_{i_k}) \binom{\frac{l}{d_{i_k}} + d_{i_k}' - 1}{d_{i_k}' - 1} \binom{\frac{m}{d_{i_k}} + d_{i_k}' - 1}{d_{i_k}' - 1} \right. \\ \left. - \sum_{k=1}^v \varphi(d_{j_k}) \binom{\frac{l}{d_{j_k}} + d_{j_k}' - 1}{d_{j_k}' - 1} \binom{\frac{m-1}{d_{j_k}} + d_{j_k}' - 1}{d_{j_k}' - 1} \right\}.$$

故に  $C(n; l, m)$  は上のよりにして求められる。

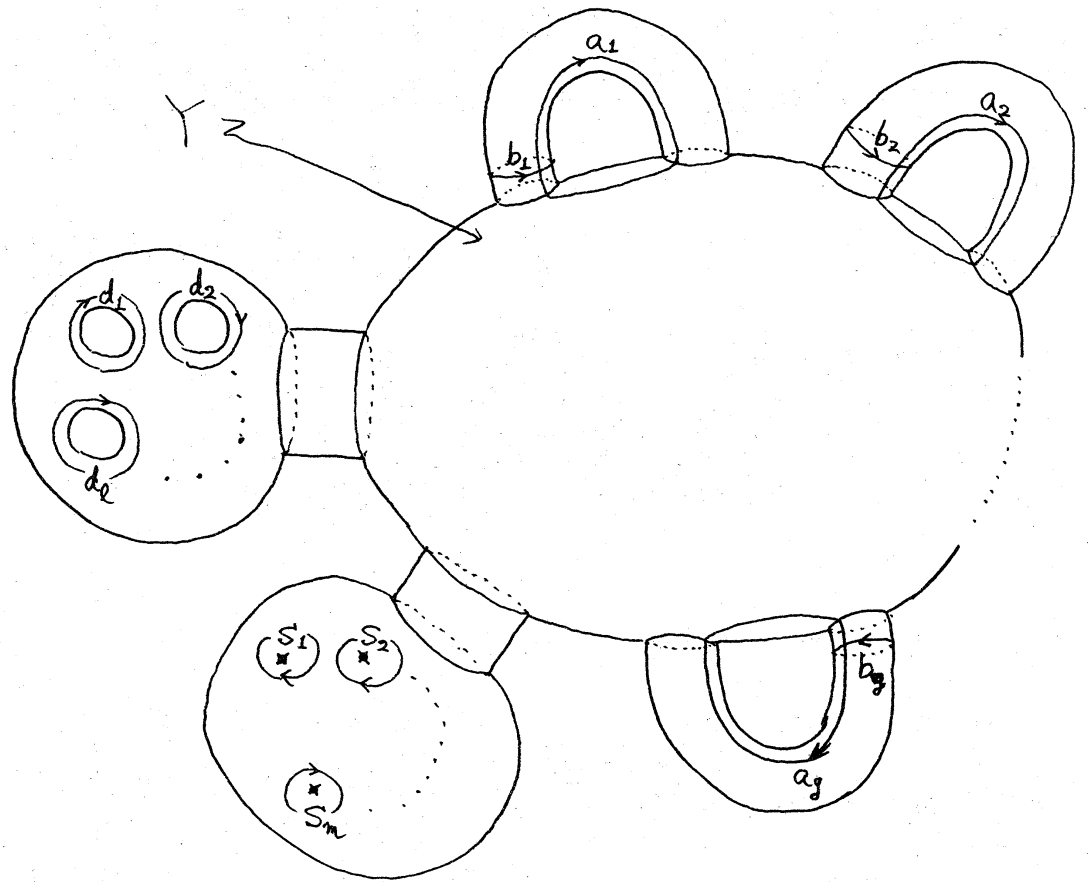
## §2. $Y$ が orientable の場合.

§0 のように,  $X, f, Y, S, \mathcal{S}$  を決めるとき,  $Y$  が orientable の場合を扱う。

$Y$  を  $l$  個の boundary components  $d_1, d_2, \dots, d_l$  をもつ genus  $g$  の orientable surface とし,  $\dim S \leq 0$  ならば, それらの点を  $S_1, S_2, \dots, S_m$  とする。 ( $l, m, g \geq 0$ )

また,  $Y$  上に下の図のように closed curves  $a_1, b_1, a_2, b_2, \dots, a_g, b_g, d_1, d_2, \dots, d_l, S_1, S_2, \dots, S_m$  ( $d_i, S_i$  は境界も, branch points も また  $Y$  上の closed curves も表わす。) をとるに, 上の closed curve の表わす  $H_1(Y-S)$  の元も同じ記号を使うことにすれば,

$$H_1(Y-S) = \left\langle \begin{array}{l} a_1, b_1, a_2, b_2, \dots, a_g, b_g \\ d_1, d_2, \dots, d_l, S_1, S_2, \dots, S_m \end{array} \middle| \begin{array}{l} d_1 + d_2 + \dots + d_l \\ + S_1 + S_2 + \dots + S_m = 0 \end{array} \right\rangle$$



さて  $\omega : H_1(Y-S) \longrightarrow \mathbb{Z}_n (\subset \mathfrak{S}_n)$  (onto homo)  
 が与えられた時,  $\mathbb{Z}_n$  の生成元を  $\tau = (1, 2, \dots, n) (\in \mathfrak{S}_n)$   
 とするとき  $\omega(a_i) = \tau^{\alpha_i}$ ,  $\omega(b_i) = \tau^{\beta_i}$ ,  $\omega(d_j) = \tau^{\delta_j}$ ,  
 $\omega(S_k) = \tau^{\theta_k}$  ( $0 \leq \alpha_i, \beta_i, \delta_j < n$ ,  $0 < \theta_k < n$ )  
 となる時,  $\omega$  に対して 整数 (mod  $n$ ) の組

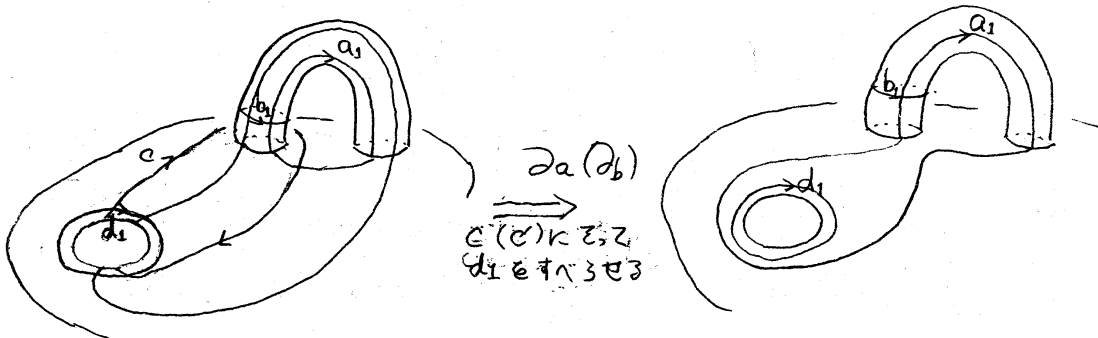
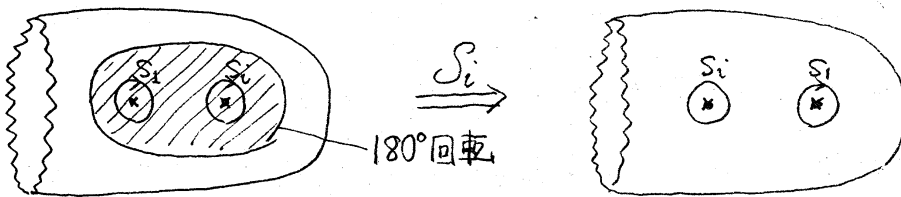
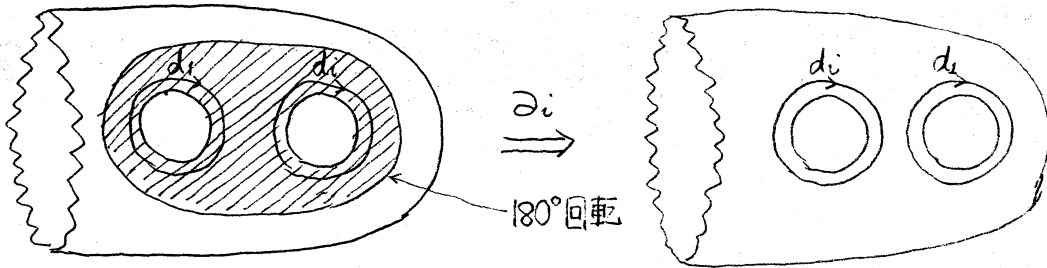
$(\alpha_1, \beta_1, \alpha_2, \beta_2, \dots, \alpha_g, \beta_g, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_e, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m)$   
 で表わすことにする。(逆にこの整数の組が決まれば,  $\omega$  も  
 一意に決まる。) 明らかに  $\omega$  が representation である  
 必要十分条件は, 整数の組で表わすと

⊗.  $S_1 + S_2 + \dots + S_g + \theta_1 + \theta_2 + \dots + \theta_m \equiv 0 \pmod{n}$

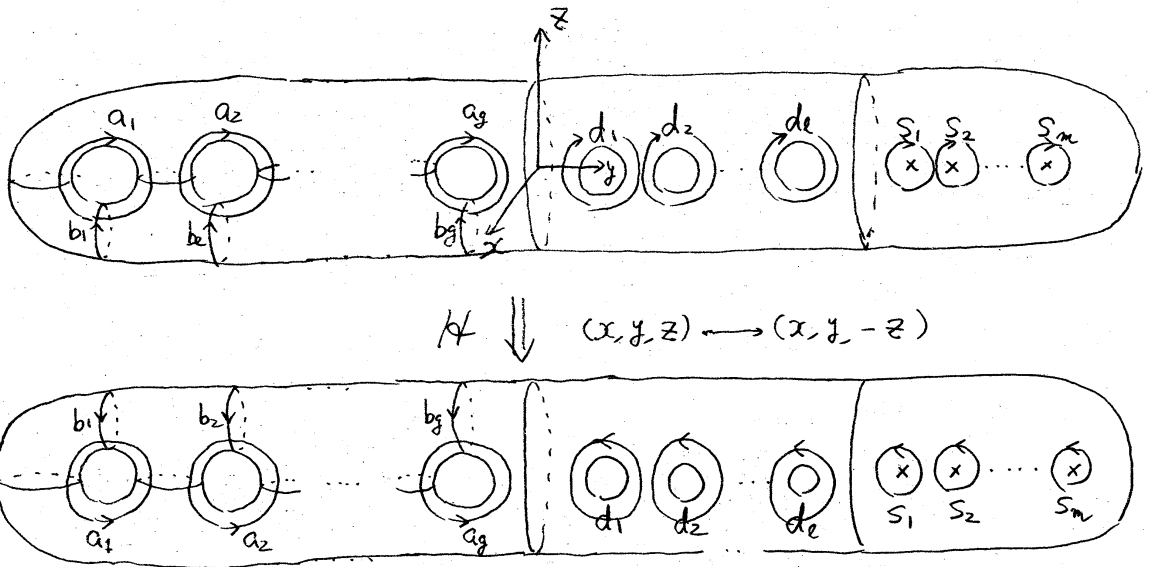
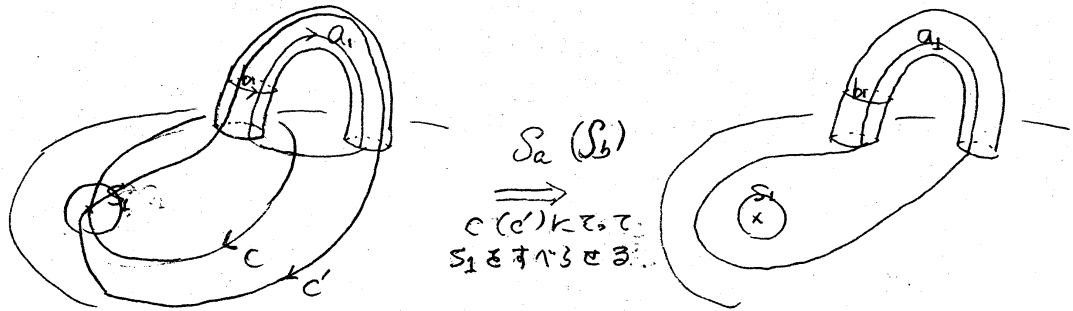
⊗  $\alpha_1, \beta_1, \alpha_2, \beta_2, \dots, \alpha_g, \beta_g, S_1, S_2, \dots, S_g, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m$  の最大公約数が  $1 \pmod{n}$  である。 ( $\omega$  を onto に対応している)

次に  $\omega \in [H_1(Y-S), \mathbb{Z}_n]$  の  $A$ -同値類を決定しよう。

$Y-S$  の homeotopy group (autohomeomorphism) の generator は求まっている [3][6] が、ここでは Suzuki [6] の記号を使うと、 $\rho, \tau_1, \mu_1, \theta_{12}$  に下の図で表わされる同相写像  $\partial_i, S_i, \partial_a, \partial_b, S_a, S_b, A$  を加えたものがある。 ( $\rho, \tau_1, \mu_1, \theta_{12}$ , etc. については [6] 参照)







これらに対応して、 $\omega \in [H_1(Y-S), \mathbb{Z}_n]$  に対応する整数の組は次のように変化する。

$$\rho : (\alpha_1, \beta_1, \alpha_2, \beta_2, \dots, \alpha_g, \beta_g, \underline{\delta}, \underline{\theta}) \rightarrow (\alpha_g, \beta_g, \alpha_1, \beta_1, \dots, \alpha_{g-1}, \beta_{g-1}, \underline{\delta}, \underline{\theta})$$

$$\tau_1 : ( \quad ) \rightarrow (\alpha_1 + \beta_1, \beta_2, \alpha_2, \beta_2, \dots, \alpha_g, \beta_g, \underline{\delta}, \underline{\theta})$$

$$\mu_1 : ( \quad ) \rightarrow (-\beta_1, \alpha_1, \alpha_2, \beta_2, \dots, \alpha_g, \beta_g, \underline{\delta}, \underline{\theta})$$

$$\theta_{12} : ( \quad ) \rightarrow (\alpha_1 + \alpha_2, \beta_1, \alpha_2, \beta_2 - \beta_1, \dots, \alpha_g, \beta_g, \underline{\delta}, \underline{\theta})$$

$$\partial_i : (\underline{\alpha}, \underline{\beta}, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_i, \dots, \delta_e, \underline{\theta}) \rightarrow (\underline{\alpha}, \underline{\beta}, \underline{\delta}_i, \delta_2, \dots, \delta_1, \dots, \delta_e, \underline{\theta})$$

$$\rho_i : (\underline{\alpha}, \underline{\beta}, \underline{\delta}, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_i, \dots, \theta_m) \rightarrow (\underline{\alpha}, \underline{\beta}, \underline{\delta}, \theta_i, \theta_2, \dots, \theta_1, \dots, \theta_m)$$

$$\partial_a : (\alpha_1, \beta_1, \dots, \alpha_g, \beta_g, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_e, \underline{\theta}) \rightarrow (\alpha_1 - \delta_1, \beta_1, \dots, \alpha_g, \beta_g, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_e, \underline{\theta})$$

$$J_a : (\underline{\delta}, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m) \rightarrow (\alpha_1 - \theta_1, \beta_1, \dots, \alpha_g, \beta_g, \underline{\delta}, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m)$$

$$A : (\alpha_1, \beta_1, \alpha_2, \beta_2, \dots, \alpha_g, \beta_g, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_e, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m)$$

$$\rightarrow (-\alpha_1, \beta_1, -\alpha_2, \beta_2, \dots, -\alpha_g, \beta_g, -\delta_1, -\delta_2, \dots, -\delta_e, -\theta_1, -\theta_2, \dots, -\theta_m)$$

これらを用いて作れる  $Y-S$  の autohomeomorphism を使うものの表の整数の組も書いておくと、

$$P_{12} : (\alpha_1, \beta_1, \alpha_2, \beta_2, \dots, \alpha_g, \beta_g, \underline{\delta}, \underline{\theta}) \rightarrow (\alpha_2, \beta_2, \alpha_1, \beta_1, \dots, \alpha_g, \beta_g, \underline{\delta}, \underline{\theta})$$

$$p^{-1} : \rightarrow (\alpha_2, \beta_2, \dots, \alpha_g, \beta_g, \alpha_1, \beta_1, \underline{\delta}, \underline{\theta})$$

$$\tau_1^{-1} : \rightarrow (\alpha_1 - \beta_1, \beta_1, \alpha_2, \beta_2, \dots, \alpha_g, \beta_g, \underline{\delta}, \underline{\theta})$$

$$\mu_1^{-1} : \rightarrow (\beta_1, -\alpha_1, \alpha_2, \beta_2, \dots, \alpha_g, \beta_g, \underline{\delta}, \underline{\theta})$$

$$\theta_{12}^{-1} : \rightarrow (\alpha_1 - \alpha_2, \beta_1, \alpha_2, \beta_2 + \beta_1, \dots, \alpha_g, \beta_g, \underline{\delta}, \underline{\theta})$$

$$\partial_a^{-1} : \rightarrow (\alpha_1 + \delta_1, \beta_1, \dots) )$$

$$J_a^{-1} : \rightarrow (\alpha_1 + \theta_1, \beta_1, \dots) )$$

$$\partial_b \doteq \rightarrow (\alpha_1, \beta_1 + \delta_1, \dots) )$$

$$J_b \doteq \rightarrow (\alpha_1, \beta_1 + \theta_1, \dots) )$$

したがって  $[H_1(Y-S; \mathbb{Z})]^{-}$  の  $A$ -同値は、これらの有限回の操作によつてえられるものとなるが、その代表系は整数の組で書くと次のようになる。

### Proposition

$g \geq 1$  のとき

$$\{ (1, 0, 0, 0, \dots, 0, 0, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_e, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m) \mid 0 \leq \delta_1 \leq \delta_2 \leq \dots \leq \delta_e < n \}$$

$$1 \leq \theta_1 \leq \theta_2 \leq \dots \leq \theta_m < n \quad \text{--- ②}$$

$$\delta_1 + \delta_2 + \dots + \delta_e \quad \text{--- ③}$$

$$+ \theta_1 + \theta_2 + \dots + \theta_m \equiv 0 \pmod{n} \quad \text{--- ④}$$

$g \equiv 0$  のとき

$$\{ (\delta_1, \delta_2, \dots, \delta_e, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m) \mid \text{① ② ③}, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_e, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m \text{ の最大公約数が } 1 \pmod{n} \text{ --- ④}$$

但し  $\sim$  は  $A$  による同値類を言う。

(略証)  $g \geq 1$  のとき

Step 1  $\alpha, \beta$  について必要ならば  $\mu$  を使えば  $\beta$  の絶対値が  $\alpha$  の絶対値より小さくしてよい。このとき  $\alpha = P\beta + \alpha'$  ( $0 \leq |\alpha'| < |\beta|$ )

$$(\alpha, \beta) \xrightarrow[\text{異符号のとき } (-1)^{-1}]{\alpha \text{ と } \beta \text{ が同符号のとき } \tau_1^P} (\alpha', \beta) \xrightarrow{\mu} (-\beta, \alpha') = (\alpha', \beta)$$

とおくと  $|\alpha'| < |\beta|$  である。再び同じ操作をくり返して、これを  $(\alpha_2, \beta_2)$  とおく。..... すると最後には  $(0, \gamma_1)$  となる。

次に  $\alpha_2, \beta_2$  についても  $P^{-1}$  を行なう上と同じ操作をすれば  $(0, \gamma_2)$  となる。..... すると ( $g$  回行なう最後に  $P^{-1}$  を行なう)

$$(0, \gamma_1, 0, \gamma_2, \dots, 0, \gamma_g, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_e, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m)$$

となる。

Step 2  $P$  を使えば  $\gamma_1, \gamma_2, \dots, \gamma_g$  のうち絶対値の一番小さいものを  $\gamma_1$  としてよい。そして  $\gamma_i = \delta_i \gamma_1 + \gamma_i'$  ( $0 \leq |\gamma_i'| < \gamma_1$ )

のとき、 $\theta_{12}^{\delta_2} (P_{12} P_{13} P_{12} \theta_{12}^{\delta_3} P_{12} P_{13} P_{12}), \dots, (P_{12} P_{1g} P_{12} \theta_{12}^{\delta_g} P_{12} P_{1g} P_{12})$  を行なえば

$$(0, \gamma_1, 0, \gamma_2, \dots, 0, \gamma_g) \longrightarrow (0, \gamma_1, 0, \gamma_2', \dots, 0, \gamma_g') \text{ となる}$$

り再び、 $\gamma_1, \gamma_2, \dots, \gamma_g'$  のうち絶対値の一番小さいものを  $\gamma_1'$  (必ず  $\gamma_1$  のなかで 0 であるもの)

要するは  $\delta$  と  $\theta$  (  $\tau$  ) にも  $\tau$  を  $\tau$  , 上と同じ操作をくり返して  $(1) < \dots (0, \bar{\gamma}, 0, 0, \dots, 0, 0, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_l, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m)$  となる。

Step. 3  $\bar{\gamma}, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_l, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m$  の最大公約数は 1

だから  $\exists z_0, z_1, z_2, \dots, z_l, z'_1, z'_2, \dots, z'_m \in \mathbb{Z}$  st.

$$z_0 \bar{\gamma} + z_1 \delta_1 + z_2 \delta_2 + \dots + z_l \delta_l + z'_1 \theta_1 + z'_2 \theta_2 + \dots + z'_m \theta_m \equiv 1$$

$$\tau = \tau \cdot \tau^{z_0} \tau^{-z_1} (\partial_2 \tau^{-z_2}) (\partial_3 \tau^{-z_3}) \dots (\partial_l \tau^{-z_l}) \tau^{-z'_1} (\tau_2 \tau^{-z'_2}) \dots$$

$(\int_m \tau^{-z'_m} \tau_m)$  を行なえば

$$(1, \bar{\gamma}, 0, 0, \dots, 0, 0, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_l, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m)$$

$$\downarrow \mu_1 \tau \mu_2$$

$(\text{mod } n)$  で全て正または 0 になる。

$$(1, 0, 0, 0, \dots, 0, 0, \delta'_1, \delta'_2, \dots, \delta'_l, \theta'_1, \theta'_2, \dots, \theta'_m)$$

$\downarrow \partial_i, \tau_i$  を使って  $\delta_i, \theta_i$  を小さい順に並べる。

$$(1, 0, 0, 0, \dots, 0, 0, \delta''_1, \delta''_2, \dots, \delta''_l, \theta''_1, \theta''_2, \dots, \theta''_m)$$

したがってあとは  $\mathbb{R}$  による同値類だけで、それらが同値類の代表系になる。

この結果を使えば  $[H_1(Y-S, \mathbb{Z}_n)]$  の同値類の個数、すなわち  $\mathcal{P}_n(Y, S)$  の個数は次のようになる。

定理 1  $Y$  が compact connected <sup>orientable</sup> surface of genus  $g$  with  $l$  boundary components のとき  $\mathcal{P}_n(Y, S)$  の個数は、 $S$  が  $m$  個の点からなるとき、次の式で求められる。

$$g \geq 1 \text{ のとき } \frac{1}{2} C(n; l, m) + \frac{1}{2} Q(n; l, m) \left( = C^*(n; l, m) \right) \text{ とおく}$$

但し  $Q(n; l, m)$  は  $Q_i(t) = \binom{t+i-1}{i}$  とし  $\neq$  とき

$$m: \text{even のとき} \quad Q_{\frac{m}{2}} \left( \left\lfloor \frac{n}{2} \right\rfloor \right) \times \sum_{i=0}^{\lfloor \frac{l}{2} \rfloor} Q_i \left( \left\lfloor \frac{n}{2} \right\rfloor \right)$$

$m: \text{odd のとき} \quad n: \text{even} \quad l \geq 1$  のとき

$$\sum_{i=0}^{\frac{n-1}{2}} Q_i \left( \frac{n}{2} - 1 \right) \times \sum_{i=0}^{\lfloor \frac{l}{2} \rfloor} \left( \left\lfloor \frac{l}{2} \right\rfloor - i + 1 \right) Q_i \left( \frac{n}{2} - 1 \right)$$

$m: \text{odd} \neq \neq l = 0$  のとき  $0$

$g = 0$  のときは  $n = p_1^{e_1} p_2^{e_2} \dots p_t^{e_t}$  ( $e_i > 0$ ) 素因数分解とすとき,

$$C^*(n; l, m) = \sum_{i=1}^t C^* \left( \frac{n}{p_i}; l, m \right) + \sum_{1 \leq i < j \leq t} C^* \left( \frac{n}{p_i p_j}; l, m \right) \\ - \dots + (-1)^r \sum_{1 \leq i_1 < i_2 < \dots < i_r \leq t} C^* \left( \frac{n}{p_{i_1} p_{i_2} \dots p_{i_r}}; l, m \right) + \dots + (-1)^t C^* \left( \frac{n}{p_1 p_2 \dots p_t}; l, m \right)$$

(略証) Prop. と §1 を使ひ,  $A$  によつて変化するもの

$$\text{のものを } (0, 0, \dots, 0, \hat{\delta}_1, \hat{\delta}_2, \dots, \hat{\delta}_l, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m) = (\delta_1, \delta_2, \dots, \delta_l, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m) \\ \xrightarrow{A} (0, 0, \dots, 0, -\hat{\delta}_1, -\hat{\delta}_2, \dots, -\hat{\delta}_l, -\theta_1, -\theta_2, \dots, -\theta_m) \equiv (0, 0, \dots, 0, n-\hat{\delta}_1, n-\hat{\delta}_2, \dots, \\ n-\hat{\delta}_l, n-\theta_1, n-\theta_2, \dots, n-\theta_m) \quad \text{各 } \delta_i \text{ と } \theta_i \text{ を } n \text{ 未満の正整数と}$$

$$(0, 0, \dots, 0, n-\hat{\delta}_l, \dots, n-\hat{\delta}_2, n-\hat{\delta}_1, n-\theta_m, \dots, n-\theta_2, n-\theta_1) \quad \text{これが}$$

$$(0, 0, \dots, 0, \hat{\delta}_1, \hat{\delta}_2, \dots, \hat{\delta}_l, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m) \quad (\text{但し } 1 \leq \hat{\delta}_i) \text{ となる個数}$$

を数えれば, これが  $Q(n; l, m)$  となるので,  $g \geq 1$  の

ときは ~~再考~~ する。  $g = 0$  のときは  $S$  に  $\delta_1, \delta_2, \dots, \delta_l, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m$

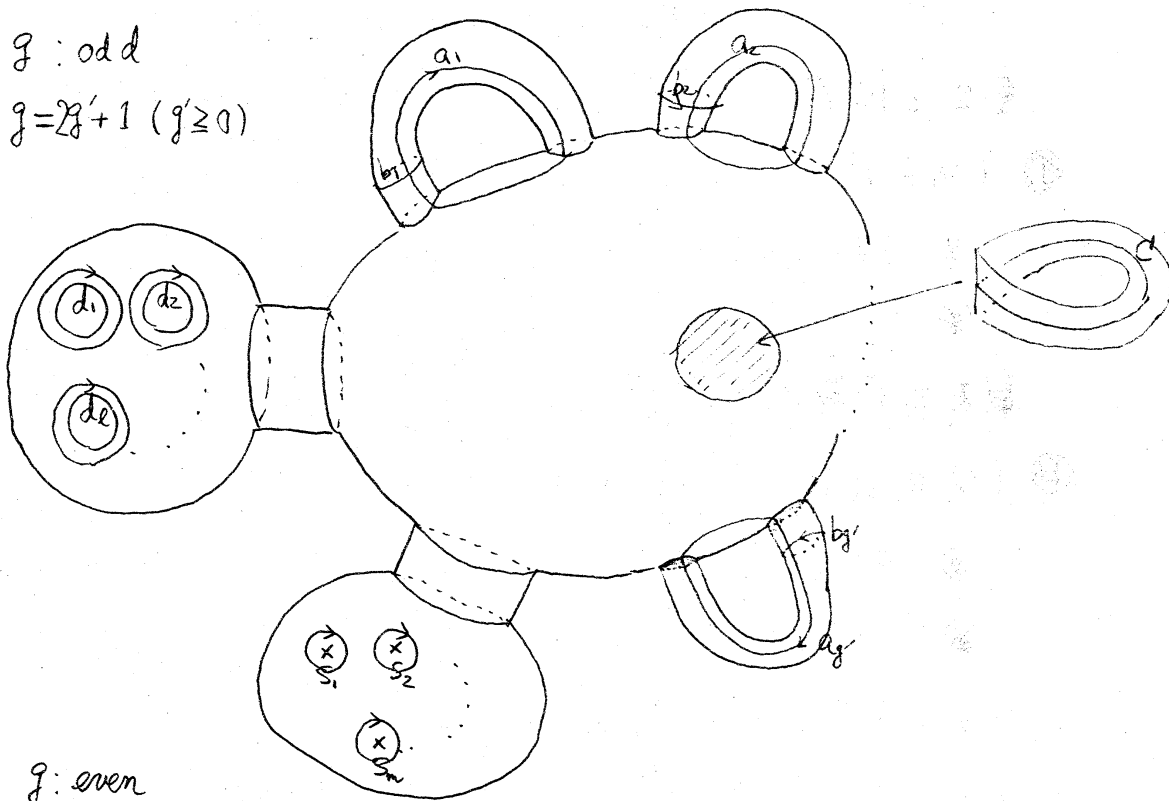
の最大公約数が 1 を求めると上の式になる。(Prop.

の代表系に対して  $\omega \in [H_1(\gamma-S), \mathbb{Z}_n]$  が存在し,  $\mathcal{P}_n(\gamma, S)$  の元が存在するのは明らか.)

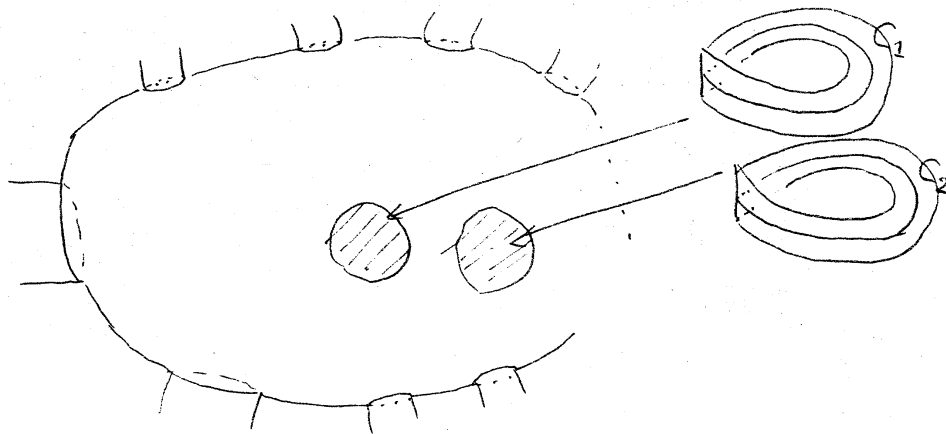
§ 3.  $Y$  が non-orientable の場合

$Y$  を  $l$  個の boundary components  $d_1, d_2, \dots, d_l$  をもつ genus  $g$  の non-orientable surface,  $S = \{s_1, s_2, \dots, s_m\} \subset L$ ,  $Y$  の標準形と下の図のようにとり, § 2 と同様  $a_i, b_i, c_i, c_2, d_i, s_i$  を closed curves にも  $H_1(Y-S)$  の元にも記号として使う。

$g$ : odd  
 $g = 2g' + 1 (g' \geq 0)$



$g$ : even  
 $g = 2g' + 2 (g' \geq 0)$



$g$ : odd のとき

$$H_1(Y-S) = \left\langle \begin{array}{l} a_1, b_1, a_2, b_2, \dots, a_g, b_g, C \\ d_1, d_2, \dots, d_l, S_1, S_2, \dots, S_m \end{array} \middle| \begin{array}{l} 2C + d_1 + d_2 + \dots + d_l \\ + S_1 + S_2 + \dots + S_m = 0 \end{array} \right\rangle$$

$g$ : even のとき

$$H_1(Y-S) = \left\langle \begin{array}{l} a_1, b_1, a_2, b_2, \dots, a_g, b_g, C_1, C_2 \\ d_1, d_2, \dots, d_l, S_1, S_2, \dots, S_m \end{array} \middle| \begin{array}{l} 2C_1 + 2C_2 + d_1 + d_2 + \dots \\ + d_l + S_1 + S_2 + \dots + S_m = 0 \end{array} \right\rangle$$

§ 2 と同様  $\omega: H_1(Y-S) \longrightarrow \mathbb{Z}_m$  と整数の組

$$\textcircled{1} (\alpha_1, \beta_1, \alpha_2, \beta_2, \dots, \alpha_g, \beta_g, \gamma, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_l, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m) \quad (g: \text{odd})$$

$$\textcircled{*} 2\gamma + \delta_1 + \delta_2 + \dots + \delta_l + \theta_1 + \theta_2 + \dots + \theta_m \equiv 0 \pmod{m}$$

$\textcircled{*} \alpha_1, \beta_1, \alpha_2, \beta_2, \dots, \alpha_g, \beta_g, \gamma, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_l, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m$  の最大公約数は  $1 \pmod{m}$  である。

$$\textcircled{2} (\alpha_1, \beta_1, \alpha_2, \beta_2, \dots, \alpha_g, \beta_g, \gamma_1, \gamma_2, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_l, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m) \quad (g: \text{even})$$

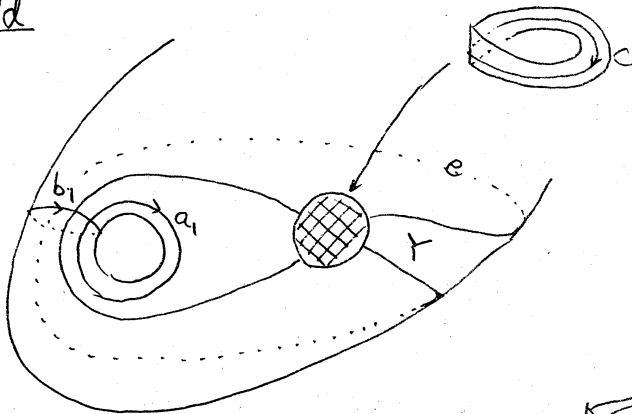
$$\textcircled{*} 2\gamma_1 + 2\gamma_2 + \delta_1 + \delta_2 + \dots + \delta_l + \theta_1 + \theta_2 + \dots + \theta_m \equiv 0 \pmod{m}$$

$\textcircled{*} \alpha_1, \beta_1, \alpha_2, \beta_2, \dots, \alpha_g, \beta_g, \gamma_1, \gamma_2, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_l, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m$  の最大公約数は  $1 \pmod{m}$  である。

をまわすことにしておく。

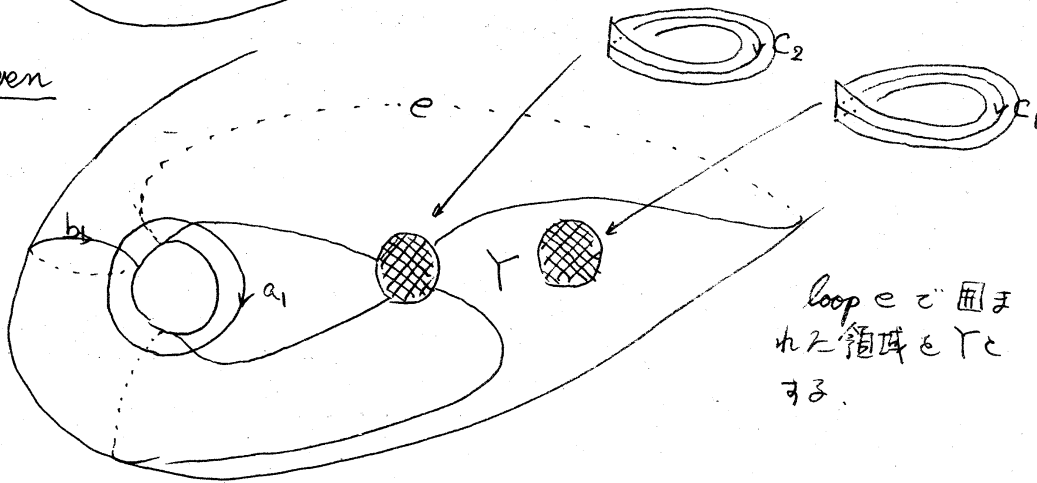
この群の  $Y-S$  の homeotopy group (autohomeomorphism) の generator は § 2 のものにさらに次の写像  $\gamma$  ( $g$ : even のときはさらに  $\gamma_1, \gamma_2$ ) を加えたものになる。[2][4] 参照。

$g: \text{odd}$



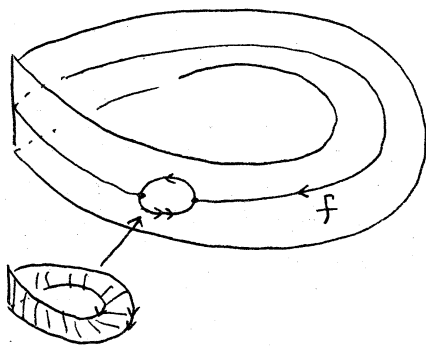
loop  $e$  で囲まれた領域を  $Y$  とする.

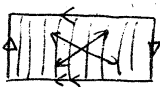
$g: \text{even}$



loop  $e$  で囲まれた領域を  $Y$  とする.

このとき  $Y$  は 次の図に同相。そこで  $f$  に  $\Sigma$  を一回転

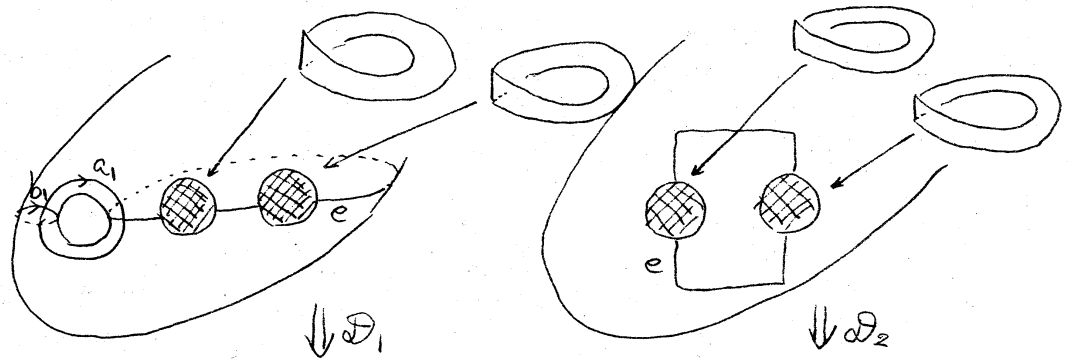


して  対称にしては  $Y$  の之を  $\Sigma$

$Y$ -homeomorphism [4] といふ。  $Y_0 (g: \text{odd})$   
 $Y_e (g: \text{even})$  とかく。

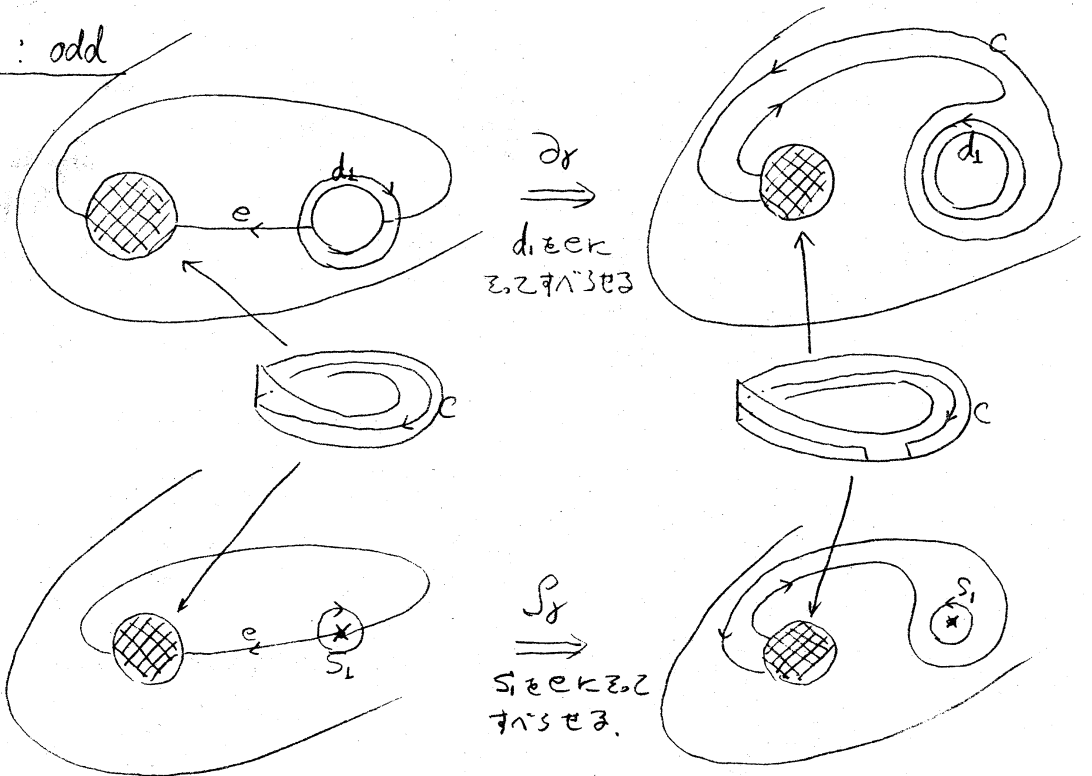
$\Sigma$  3 に  $g: \text{even}$  のときは





上の図の  $e$  に関する Dehn's twist を  $D_1, D_2$  とおく。また  $d_i, s_i$  に関して  $S_2$  のものに

$g$ : odd



$g$ : even のとき

$D_1, D_2, S_1, S_2$  (上と同様)

これらについて整数の組は次のように変化する。

$$Q_0 : (\alpha_1, \beta_1, \alpha_2, \beta_2, \dots, \alpha_g, \beta_g, \gamma, \underline{\delta}, \underline{\theta}) \rightarrow (\underbrace{-\alpha_1, -\beta_1 - 2\gamma}, \alpha_2, \beta_2, \dots, \alpha_g, \beta_g, \gamma, \underline{\delta}, \underline{\theta})$$

$$\partial_\gamma : (\alpha, \beta, \gamma, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_\ell, \underline{\theta}) \rightarrow (\alpha, \beta, \gamma + \delta_1, \underbrace{-\delta_1}, \delta_2, \dots, \delta_\ell, \underline{\theta})$$

$$\partial_\gamma : (\alpha, \beta, \gamma, \underline{\delta}, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m) \rightarrow (\alpha, \beta, \gamma + \theta_1, \underline{\delta}, \underbrace{-\theta_1}, \theta_2, \dots, \theta_m)$$

$$Q_e : (\alpha_1, \beta_1, \alpha_2, \beta_2, \dots, \alpha_g, \beta_g, \gamma_1, \delta_2, \underline{\delta}, \underline{\theta}) \rightarrow (\alpha_1 + 2\gamma_1, \beta_1, \alpha_2, \beta_2, \dots, \alpha_g, \beta_g, \underbrace{-\gamma_1, 2\gamma_1 + \delta_2}, \underline{\delta}, \underline{\theta})$$

$$\partial_{\delta_1} : \rightarrow (\alpha_1 + \beta_1 - \gamma_1 - \delta_2, \beta_1, \alpha_2, \beta_2, \dots, \alpha_g, \beta_g, \underbrace{-\beta_1 + 2\gamma_1 + \delta_2}, \beta_1 - \gamma_1, \underline{\delta}, \underline{\theta})$$

$$\partial_{\delta_2} : (\alpha, \beta, \gamma_1, \delta_2, \underline{\delta}, \underline{\theta}) \rightarrow (\alpha, \beta, \underbrace{-\delta_2}, \gamma_1 + 2\delta_2, \underline{\delta}, \underline{\theta})$$

$$\partial_{\gamma_1} : (\alpha, \beta, \gamma_1, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_\ell, \underline{\theta}) \rightarrow (\alpha, \beta, \gamma_1 + \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_\ell, \underline{\theta})$$

$$\partial_{\gamma_2} : ( \quad \quad \quad ) \rightarrow (\alpha, \beta, \gamma_1, \delta_2 + \delta_1, \underbrace{-\delta_1}, \delta_2, \dots, \delta_\ell, \underline{\theta})$$

$$\partial_{\gamma_1} : (\alpha, \beta, \gamma_1, \delta_2, \underline{\delta}, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m) \rightarrow (\alpha, \beta, \gamma_1 + \theta_1, \delta_2, \underline{\delta}, \underbrace{-\theta_1}, \theta_2, \dots, \theta_m)$$

$$\partial_{\gamma_2} : ( \quad \quad \quad ) \rightarrow (\alpha, \beta, \gamma_1, \delta_2 + \theta_1, \underline{\delta}, \underbrace{-\theta_1}, \theta_2, \dots, \theta_m)$$

これらを用いると § 2 と同様に  $[H_1(Y-S), \mathbb{Z}_n]$  の  $A$ -同値類の代表系は次のようになる。

Proposition ( $g$ : odd)

①  $n$ : odd のとき  $\underline{g} \geq 3$

$$\left\{ (1, 0, 0, \dots, 0, \gamma, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_\ell, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m) \right. \begin{cases} 0 \leq \delta_1 \leq \delta_2 \leq \dots \leq \delta_\ell \leq \frac{n-1}{2} & \text{①} \\ 1 \leq \theta_1 \leq \theta_2 \leq \dots \leq \theta_m \leq \frac{n-1}{2} & \text{②} \\ 2\gamma + \delta_1 + \delta_2 + \dots + \delta_\ell \\ + \theta_1 + \theta_2 + \dots + \theta_m \equiv 0 \pmod{n} & \text{③} \end{cases}$$

$\underline{g} = 1$

$$\left\{ (\gamma, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_\ell, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m) \mid \begin{array}{l} \text{① ② ③ と} \\ \gamma, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_\ell, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m \text{ の} \\ \text{最大公約数} \equiv 1 \pmod{n} \end{array} \right\}$$

⑩  $n$ : even のとき  $g \geq 3$

$$\left\{ (1, 0, 0, \dots, 0, \gamma, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_e, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m) \mid \begin{array}{l} 0 \leq \delta_1 \leq \delta_2 \leq \dots \leq \delta_e < \frac{n}{2} \text{ --- ①} \\ 1 \leq \theta_1 \leq \theta_2 \leq \dots \leq \theta_m < \frac{n}{2} \text{ --- ②} \\ 2\gamma + \delta_1 + \delta_2 + \dots + \delta_e + \theta_1 + \theta_2 + \dots + \theta_m \equiv 0 \pmod{n} \text{ --- ③} \end{array} \right\}$$

$$\left\{ (2, 0, 0, \dots, 0, \gamma, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_e, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m) \mid \begin{array}{l} \text{① ② ③} \\ \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_e, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m \text{ の最大公約数} \\ \gamma: \text{even} \text{ --- ④} \\ \gamma: \text{odd} \text{ --- ⑤} \end{array} \right\}$$

さらに  $\exists \delta_i = \frac{n}{2} \neq z$  は  $\exists \theta_i = \frac{n}{2}$  のときは、

$$\left\{ (1, 0, 0, \dots, 0, \gamma, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_e, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m) \mid \begin{array}{l} 0 \leq \delta_1 \leq \delta_2 \leq \dots \leq \delta_e \leq \frac{n}{2} \text{ --- ⑥} \\ 1 \leq \theta_1 \leq \theta_2 \leq \dots \leq \theta_m \leq \frac{n}{2} \text{ --- ⑦} \\ \text{③} \\ 0 \leq \gamma < \frac{n}{2} \end{array} \right\}$$

$$\left\{ (2, 0, 0, \dots, 0, \gamma, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_e, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m) \mid \begin{array}{l} 0 \leq \delta_1 \leq \delta_2 \leq \dots \leq \delta_e \leq \frac{n}{2} \\ 1 \leq \theta_1 \leq \theta_2 \leq \dots \leq \theta_m \leq \frac{n}{2} \\ \text{③ ④ ⑤} \\ 0 \leq \gamma < \frac{n}{2} \end{array} \right\}$$

$g = 1$  のときは

$$\left\{ (\gamma, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_e, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m) \mid \begin{array}{l} \text{① ② ③} \\ \gamma, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_e, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m \text{ の最大公約数} = 1 \end{array} \right\}$$

$\exists \delta_i = \frac{n}{2} \neq z$  は  $\exists \theta_i = \frac{n}{2}$  のとき

$$\left\{ (\gamma, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_e, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m) \mid \begin{array}{l} \text{⑥ ⑦ ③}, 0 \leq \gamma < \frac{n}{2} \\ \gamma, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_e, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m \text{ の最大公約数} = 1 \end{array} \right\}$$

(略証)  $g \geq 3$  のとき  
まず § 2 と同様にして  $(\alpha_1, \beta_1, \dots, \alpha_g, \beta_g, \gamma, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_e, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m) \rightarrow (\alpha, 0, 0, \dots, 0, \gamma, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_e, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m)$  とする。

但し  $\alpha = \text{g.c.d.} \{ \alpha_1, \beta_1, \dots, \alpha_g, \beta_g, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_e, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m \}$  である。

この時  $\exists x, y \in \mathbb{Z} \quad x\alpha + y\gamma \equiv 1 \pmod{n}$  をと、とあく。

$n$ : odd のときは  $\exists k \in \mathbb{N}; 2k \equiv 1 \pmod{n} \neq z \exists k \in \mathbb{N};$

$2k \equiv -1 \pmod{n}$  である。  $(\alpha, 0, \gamma)$  について,  $(\tau_1^2 g_0)^k \in$

行なうと  $(\alpha, 2\beta\gamma, \gamma) \equiv (\alpha, \pm\gamma, \gamma)$  になるのを、この操作を  $|y|$  回行なうと  $(\alpha, 0, \gamma) \rightarrow (\alpha, y\gamma, \gamma)$  となる

$(u^3 \tau_i^{-x} u_1)$  と行なうと  $(\alpha, y\gamma + x\beta, \gamma) \equiv (\alpha, 1, \gamma)$  になるのを  $\tau_i^{-\alpha} \rightarrow (0, 1, \gamma)$  になる。したがって  $(1, 0, 0, \dots, 0, \gamma, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_e, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m)$  になる。

$n$ : even のとき  $\alpha$ : even,  $\gamma$ : odd のときは  $y \equiv 0 \pmod{2}$  であるから  $y' = \frac{y}{2}$  とおいて同様に  $(1, 0, 0, \dots, 0, \gamma, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_e, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m)$  になる。 $\alpha$ : even,  $\gamma$ : odd のときは  $2x\alpha + 2y\gamma \equiv 2 \pmod{2}$  を使えば同様にして  $(2, 0, 0, \dots, 0, \gamma, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_e, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m)$  になる。あとは  $\partial_\gamma, \beta_\gamma, \partial_i, \beta_i$  を使えば求められる。

$g=1$  のときも同様である。

### Proposition ( $g$ : even)

①  $g \geq 4$ ,  $n$ : odd のとき

$$\left\{ (1, 0, 0, \dots, 0, 0, \gamma_2, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_e, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m) \left\{ \begin{array}{l} 0 \leq \delta_1 \leq \delta_2 \leq \dots \leq \delta_e \leq \frac{n-1}{2} \text{---①} \\ 1 \leq \theta_1 \leq \theta_2 \leq \dots \leq \theta_m \leq \frac{n-1}{2} \text{---②} \\ 2\gamma_2 + \delta_1 + \delta_2 + \dots + \delta_e + \theta_1 + \theta_2 + \dots + \theta_m \equiv 0 \pmod{n} \text{---③'} \end{array} \right. \right\}$$

②  $g \geq 4$ ,  $n$ : even のとき

$$\left\{ (1, 0, 0, \dots, 0, 0, \gamma_2, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_e, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m) \left\{ \begin{array}{l} 0 \leq \delta_1 \leq \delta_2 \leq \dots \leq \delta_e < \frac{n}{2} \text{---④} \\ 1 \leq \theta_1 \leq \theta_2 \leq \dots \leq \theta_m < \frac{n}{2} \text{---⑤} \end{array} \right. \right\}$$

③'

$$\left\{ (2, 0, 0, \dots, 0, 1, \gamma_2, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_e, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m) \left\{ \begin{array}{l} \text{④ ⑤} \\ \text{g.c.d.}(\delta_1, \delta_2, \dots, \delta_e, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m): \text{even} \text{---⑥} \\ \gamma_2: \text{odd} \\ 2 + 2\gamma_2 + \delta_1 + \delta_2 + \dots + \delta_e + \theta_1 + \theta_2 + \dots + \theta_m \equiv 0 \pmod{n} \text{---⑦} \end{array} \right. \right\}$$

さらに  $\exists \delta_i = \frac{n}{2}$  または  $\exists \theta_i = \frac{n}{2}$  のときは

$$\left\{ (1, 0, \dots, 0, \alpha_2, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_l, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m) \mid \begin{array}{l} 0 \leq \delta_1 \leq \delta_2 \leq \dots \leq \delta_l \leq \frac{n}{2} \text{ --- ⑧} \\ 1 \leq \theta_1 \leq \theta_2 \leq \dots \leq \theta_m \leq \frac{n}{2} \text{ --- ⑨} \\ 0 \leq \alpha_2 < \frac{n}{2} \\ \text{③}' \end{array} \right\}$$

$$\left\{ (2, 0, \dots, 0, 1, \alpha_2, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_l, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m) \mid \begin{array}{l} \text{⑧} \quad \text{⑨} \\ 0 \leq \alpha_2 < \frac{n}{2} \\ \text{⑦} \end{array} \right\}$$

①  $g=2$  の時は長くなるのでここでは省略する。  $n$  が素数

の時のみ書いておくと、

$m=0$  のとき

$$\left\{ (\alpha_1, \alpha_2, 0, 0, \dots, 0) \mid \begin{array}{l} \alpha_1 + \alpha_2 \equiv 0 \pmod{n} \quad 0 \leq \alpha_1 \leq \lfloor \frac{n}{2} \rfloor \\ 0 \leq \alpha_1 \leq \alpha_2 < n \quad \alpha_2 \neq 0 \end{array} \right\} \text{ と}$$

$m > 0$  または  $\delta_l \neq 0$  のとき

$$\left\{ (0, \alpha_2, \delta_1, \delta_2, \dots, \delta_l, \theta_1, \theta_2, \dots, \theta_m) \mid 2\alpha_2 + \delta_1 + \delta_2 + \dots + \delta_l + \theta_1 + \theta_2 + \dots + \theta_m \equiv 0 \right\}$$

( $n \neq 2$  のとき)

( $n=2$  のときは上の場合にさらに  $\{(0, 1, 0, 0, \dots, 0)\}$  も含まれる。

[証明は  $g$ : odd のときとほとんど同様で、 $\alpha_e, \alpha_1, \alpha_2, \alpha_1, \alpha_2, \beta_1, \beta_2$  を使うとできる]

この結果を用いて  $n$ : odd のときのみ  $\mathcal{P}_n(Y, S)$  の個数をまとめて書いておくと ( $g=2$  のときは  $n$ : prime だけ)

定理 2  $Y$  が compact connected non-orientable surface of genus  $g$  with  $l$  boundary components のとき  $\mathcal{P}_n(Y, S)$  は  $S$  が  $m$  個の点からなるとき、次の式で表わされる。 ( $n$ : odd)

$$g \geq 3 \text{ のとき } \binom{\frac{n-1}{2} + l}{l} \binom{\frac{n-1}{2} + m - 1}{m}$$

$g=1$  のとき §2 と同様に  $n$  を素因数分解して求めら  
れる。すなわち  $n = p_1^{e_1} p_2^{e_2} \dots p_t^{e_t}$  ( $e_t > 0$ ) とするとき、

$$\begin{aligned} & \binom{\frac{n-1}{2} + l}{l} \binom{\frac{n-1}{2} + m - 1}{m} - \sum_{i=1}^t \binom{\frac{p_i - 1}{2} + l}{l} \binom{\frac{p_i - 1}{2} + m - 1}{m} + \\ & \dots + (-1)^v \sum_{1 \leq j_1 < j_2 < \dots < j_v \leq t} \binom{\frac{n}{p_{j_1} p_{j_2} \dots p_{j_v}} - 1}{2} + l}{l} \binom{\frac{n}{p_{j_1} p_{j_2} \dots p_{j_v}} - 1}{2} + m - 1}{m} \\ & + \dots + (-1)^t \binom{\frac{n}{p_1 p_2 \dots p_t} - 1}{2} + l}{l} \binom{\frac{n}{p_1 p_2 \dots p_t} - 1}{2} + m - 1}{m} \end{aligned}$$

但し  $\binom{a-1}{a} = 0$  とする。

$g=2$  のとき ( $n$ : prime)

$$m=0 \text{ のとき } \frac{n-1}{2} + \binom{\frac{n-1}{2} + l}{l}$$

$$m \neq 0 \text{ のとき } \binom{\frac{n-1}{2} + l}{l} \binom{\frac{n-1}{2} + m - 1}{m}$$

系 ( $m=2$ ) ①  $m$ : even の時  $\mathcal{P}_2(\gamma, S)$  は

$$\min\{g, 3\} + \left\lfloor \frac{l}{2} \right\rfloor \quad \text{② } m \text{: odd の時は } 0$$

§2, §3 を使えば §0 の問題の解が色々と得られる  
が (特に  $n$ : prime について) まとま、形として述べられる  
ので、今後の機会に述べることにする。  $n=2$  については  
[ ] でできている。

## 参考文献

- [1] Tohl Asoh "Classification of free involutions on surfaces" *Hiroshima Math. Jour.*, 6 (1976) 171-181
- [2] D.R.J. Chillingworth "A finite set of generators for the homeotopy group of a non-orientable surface" *Proc. Camb. Phil. Soc.*, 65 (1969) 409-430
- [3] W.B.R. Lickorish "A finite set of generators for the homeotopy group of a 2-manifold" *Proc. Camb. Phil. Soc.*, 60 (1964) 769-778, Corrigendum, 62 (1966) 679-681
- [4] ——— "Homeomorphisms of non-orientable two-manifolds" *Proc. Camb. Phil. Soc.*, 59 (1963) 307-317
- [5] P.A. Smith "Abelian Actions on 2-manifolds" *Michigan Math. Jour.*, 14 (1967) 257-275
- [6] S. Suzuki "On homeomorphisms of a 3-dimensional handlebody" *Can. Jour. Math.*, 29 (1977) 111-124